

## インドネシアに 環境教育普及を

富山大でシンポ

「日本・インドネシア環境シンポジウム 環境保護と環境教育を考える」が5日、富山大五福キャンパスで開かれ、学生ら約30人がインドネシアの子どもたちに対する環境教育の必要性について理解を深めた。

インドネシアの教育環境の整備に取り組むNGO「インドネシア教育振興会」(富山市、窪木靖信代表)と、富山大人間発達科学部野平研究室

インドネシアの環境教育の必要性に理解を深めたシンポジウム。富山大五福キャンパス



が実施。同会は地球環境基金(神奈川)の助成を受け、本年度から3年計画で、同国南タンゲラング市の小学校で活

用される環境についての教科書作りを進めている。

同学部の学生ら日本人のほか、インドネシアのNGOや教育法人などから関係者4人も参加した。教育法人「スマラク」のファディラ・ハシム理事長は現地の写真を示しながら、ごみのポイ捨てが日常化している現状を紹介。「地球は祖先からもらったものではなく、子どもたちから預かったものだ」という考え方が重要」と話した。県の主要な環境政策や日本の小学校の環境教育の取り組みについて説明する時間もあった。